

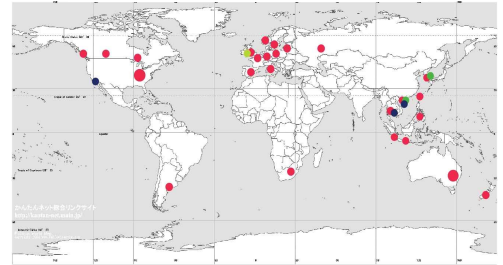
輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）

※申請者名：木内酒造合資会社、品目：ウイスキー

1. 輸出における現状と課題

当社は、クラフトビールを主に醸造し世界40カ国で販売している。2016年より、国産原材料を活用した次なる輸出の柱を作り出すためにウイスキーの製造に乗り出した。2019年には、年間に750ml 瓶33万本の生産が可能な八郷蒸溜所を設置し、2025年からの本格的な輸出を目指していた。その様な中コロナウイルスの蔓延により、輸出が止まってしまった。実際主要輸出国のアメリカでは、30%ものクラフトビール製造会社が廃業の状態と言われ、コロナウイルス終息後でもマーケットは厳しくなることが想定される。

木内酒造の販売網



2. 輸出事業計画の取組内容

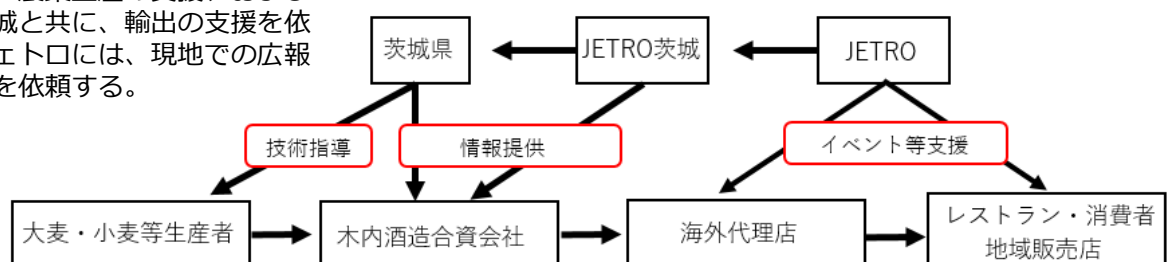
現在日本産のウイスキーは、その風味の豊かさ、繊細さを武器に、ジャパニーズウイスキーとして評価が高い。当社では、さらなる差別化の為に、小麦・大麦等の材料を国内に求め、真のジャパニーズウイスキーを目指している。その商品を早期に市場に投入することが当社の輸出戦略に大きな影響を与える。そのために、八郷蒸溜所内に、ウイスキーを充填する建物の建築及びパッケージラインを新設し、2020年秋からの世界での販売を目指す。この取り組みによってクラフトビールとウイスキーの2つの事業を売上の柱として輸出売上のV字回復を目指したい。



3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

茨城県には、農業生産の支援、およびジェトロ茨城と共に、輸出の支援を依頼。海外ジェトロには、現地での広報活動の支援を依頼する。

PDCA体制図



4. 輸出目標額

これまでの輸出売上、およびこの取り組み後の売上目標は右表の通りである。コロナウイルスが終息しても輸出商品の回復は鈍いことが想定されるが、これまで培ってきた既存代理店ネットワークにウイスキーを輸出し、弊社と既存代理店や関係機関が連携して輸出拡大を図っていく。

ウイスキー	現状(平成31年)	目標年(令和4年)
輸出額(千円)	750	330,000
輸出量(t)	1	63
輸出先国	アメリカ	アメリカ